



芝園臥龍梅記

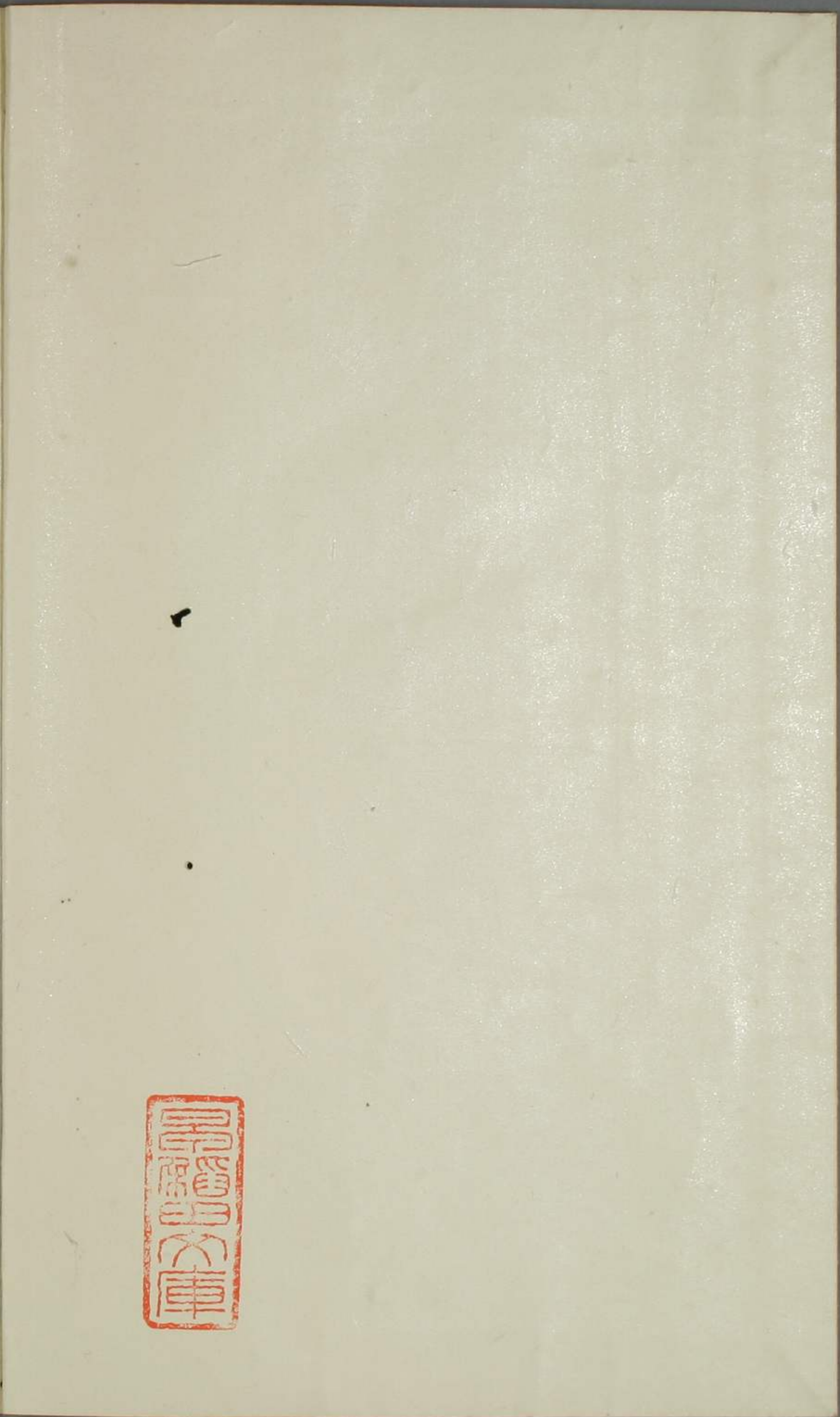
全

3多
1978





伊川能筆





清氷れこのの沖別野より。あねとす
浦流れゆるあをわりてあま石れたる
ひもとくあまのさくらさくら海に流るる
その中一年しては。物に龍の外に
して花より昔は音々からさかぬ。咲いたる
あまのり。このさくらさくら。我にたるとよま
名をとよむら。このさくらさくら。あまのり
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり



江賢をたむるやあはれ神洲に古後いして
ちりぬし時祖交れちるのみありとてあむら
やうりよおししききしこれれれなるなり
出とあふんあふりこからあて

庭に廣に龍れ砂とかくのいん

神にちるる物に

とよみかたのいあきしとらからて
早うはりおあむりて室曆れいりりか
胡々あはれしむに如象を荒旅しとこれ

不そりしき清水のいほけありのそめ
も江に侍従賢格といくく如象さむいり
新うしてかれ無相めさるる孫のれらあき
とこいしむいしりりりりりりりりりり
これらと播あしりりりりりりりりりり
つるるんとしていりりりりりりりりりり
義子よついでと福はらうい義子それ少枝と
得りしははははははははははははははは
とあむらあむらあむらあむらあむらあむら

こもさうとて深司直さうとてさるは文化十女
こつとて深生よあむ

神龍梅と御流しとてよあを流あらう

流人れとてとれ花れ色をくく

乞本力梅ゆんとする下りあさり

侍従利厚 土井

色も香もさうとてさるは文化十女

梅花飛花さうとてさるは文化十女

後河守家長 植村

年改あむとてさるは文化十女

龍れ花とてさるは文化十女

梅津守山敷 堀田

こもさうとて深司直さうとてさるは文化十女

姿も花も深生よあむ

とてさるは文化十女 小笠原

傳聞猛將勝嘉明裁得園前梅樹清幹
似卧龍を偃蹇芬芳仍舊尚敷榮

月階ささる

永極

花のこゝ枝れ葉もつらねさよ

みこふらんれ梅れつよと

土直はる忠勲 水世

わくささる君の光りよ可龍れ

ささるささる梅や咲つら

花之清浄巻紙 有馬

神龍能君とあめささるささる

白ひのささるささるのめさ

日向有利根 巨勢

天をささるのめささるすささ

咲やみさる梅れつらと

飛鳥のささる 依地

神龍能君とあめささるささる

白ひのささるささるのめさ

清原貞証 横瀬

いささささささささささ

をささる梅れつらと

若狭も成る好望

あは龍力名をきくふりてむのいも

をよれ色とあはりのせりたる

大學以漸林

鉄石心腸今古同愛梅知有廣平風

緬想當年曾入賦花開彷彿錦袍紅

既衡長子

雪虐霜饗老幹空對之懷古仰英風當

年百戰鋒端血染作花之別樣紅

河内守昌始羽比宗

新し事しとゆきまぬ水たあは龍れ

名よあまきこころ葉ふる梅りるん

勇比守西色山本

い〜と古あは梅也たることり

らよ自ひも〜

純伴守龍純吉川

梅り年またらしいやあ〜神龍力

そのあよあ〜花力いん香ら

梅中子忠誨方名解

梅樹叨當萬里城人間應識臥龍名花
開免園春旋滿香動策臺風坐生

伴如雪山路新見

あまやけ花も鱗乃羽とてい

いふよふりてふりてふりてふりて

豊増信有川口

少く年と古枝の委ねる龍の

花も鱗乃羽とてい

長門子賜月水地

五出花魁鱗作文雪身冰骨之氣氤氳
却疑姑射神人夢醒作真龍凌曉雲

因情子西策福村

已是承恩樹婆娑似臥龍明時夕
雨露花暖不知冬

筑前子季富之

雪滿山古枝れ梅と却龍れ姿

いかに心もふりていふ

内苑以直照山田切

いゝまこと古板乃毒一斗まじり

まじりぬまじりぬいりぬ

大漏山田切

昔今れちよむ一斗り

まじりぬまじりぬいりぬ

御座れ御龍梅とりて

人一斗まじりぬまじりぬいりぬ

安藤山田切

御龍れ乃よあ一斗り

まじりぬまじりぬいりぬ

色収一斗

年一斗まじりぬまじりぬいりぬ

まじりぬまじりぬいりぬ

直存山田切

海一斗まじりぬまじりぬいりぬ

御れ自由一斗り

守建 山内平

春風よそはあもさる〜砂籠れ

さし井〜さうけ〜自梅の香少花の香法花の香の香

利顯 新田

九老淵方海きら自しらめて

そはあらうよ梅の影とわいと

西席 河原

清一斗〜河は花は〜さうけ〜

梅さぬ花あのおか〜さうけ〜

御殿まあつらりさうけ〜さうけ〜使乃

藏〜さうけ〜さうけ〜さうけ〜

〜さうけ〜さうけ〜さうけ〜

〜さうけ〜さうけ〜さうけ〜

〜さうけ〜さうけ〜さうけ〜

豊実 田村

雪梅乃名さくあ〜さうけ〜

波あ〜さうけ〜さうけ〜

かき目録

神龍乃名よあふ梅も君の代り

いよ一何ゆふにさるる風

直親 戸久

色も叩く心算とて廣く神龍乃

そお名はしつる梅のりりせ

祐壽 虎

龍の少と若さうはさしつる代り

さうと沸け梅れさうさうせ

定確 方休

神龍乃それ名は梅の花の音ら

やと并しつるふさのりり

神龍梅乃龍とほつるさうり

時交とつる梅とあつるれら

司直

神龍乃しつる

いよ一何ゆふにさるる風



清府芝浦別墅有古梅相傳勳臣加藤嘉明手植 今紀公初
在清府也命余作其記使画院榮信圖之合為一卷當時執政
故古河侯以下黃閣諸君皆有題詠附焉 公入紀藩其墅亦
轉換此卷散逸不知所在 余家復羅災禍本亦為焉有 余常憾
之近日鈴木昌芳獲觀其卷于某所寫一通示余請一言余展
覽再三追想往時悲喜交到因泫然記其來由以為後證

弘化乙巳重陽前一日

朝散大夫源司直



